

弘 前 大 学

國 史 研 究

第 151 号

広須新田の歴史の変遷（下）
佐藤 文孝 1
松平定信の海防計画について
塚越 俊志 22

菓子はどうのように審査されたのか
～内国勸業博覧会の審査資料から見えてくるもの～
中園 美穂 44
〔研究ノート〕

『青森開港の恩人』森山弥七郎の人物像を考え直す
工藤 大輔 65
〔資料紹介〕

弘前市西茂森普門院本堂の墨書について
関根 達人
福井 敏隆
小石川 透 80
高橋 奈里
田村 真子

〔書評と紹介〕

虎尾達哉著
『律令政治と官人社会』
十川 陽一 93
浪川健治著
『北の被差別の人々』『乞食』と『革師』

八戸の歴史叢書
『八戸藩遠山家日記』第九巻
中野渡 一耕 97
萱場 真仁 101

深浦のあゆみ編集委員会編集・深浦町発行
『深浦町・岩崎村合併一五周年記念誌 深浦のあゆみ』
河西 英通 105

— 彙 報 —

◎令和二年度総会において会長はじめ新役員が多数選出され、事務局も変更となった。そこで、これまでの会則や会運営について共通理解を図るため、また、現状に合わない内規等の見直しのために、令和三年五月八日に会長・副会長打合せ、六月二十四日に会長・事務局打合せ、七月三日に三役会（オンライン会議）、八月二二日に役員会（オンライン会議）、九月一八日に編集担当者会議（オンライン会議）を開催した。役員会の審議内容については再度三役会で確認し、メール会議で役員会の了承を得た（九月二〇日～三〇日メール会議）。

◎役員会での主要な確認事項は、①投稿規定に「リポジトリ公開」を明記（本号の投稿規定を確認下さい）、②委員の会務分掌を明確にするとともに、委員の中から編集担当委員のほか例会担当委員を新たに選任して会長が委嘱、③機関誌『弘前大学國史研究』編集に係る諸文書様式の整備、④機関誌の寄贈先・交換先の現状把握と精査、⑤令和三年度弘前大学國史研究会総会・例会の開催、の五点であった。

◎⑤の令和三年度総会は昨年度に引き続き紙上審議とし、議案資料は本号に同封した。例会については、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、開催方法を含め、例会担当委員で検討することとした。

◎前号及び本号に分割掲載した「広須新田の歴史の変遷（上）（下）」を執筆された佐藤文孝氏は令和三年一月八日にご逝去され、本論文が遺稿となった。佐藤氏は主に本県西北五地域をフィールドに研究を進められ、北奥文化研究会の主要メンバーとして長い間事務局も務められた。また、前青森県考古学会会長の福田友之氏が令和三年七月二七日

にご逝去された。長く本県考古学会を牽引され、『青森県の考古学史ノート』（北方新社）等を上梓し、本機関誌にも多くの論考を寄せられた。ここにお二人の本会研究活動に対する貢献に深く感謝するとともに、ご冥福を心よりお祈りいたします。

（HT）

『弘前大学國史研究』投稿規定

- ◎ 論文 四百字詰 60枚程度を原則とする(縦書き、以下同様)
- ◎ 研究ノート 四百字詰 20枚から30枚程度
- ◎ 研究余録 四百字詰 10枚程度
- ◎ 史料紹介 四百字詰 10枚から30枚程度
- ◎ その他(書評・研究動向・歴史随想など) 四百字詰 10枚から20枚程度
- ◎ パソコン等による執筆は、32字×23行で組んで下さい。
- ◎ デジタルデータによる投稿も可能です。ただし、本文と図版は別のファイルにし、図版の挿入箇所及び大きさ等を本文中に明示して下さい。
- ◎ 横書き原稿を希望する時は、あらかじめ本会へご相談下さい。
- ◎ 原稿締切 一月末と八月末の年2回
- 事務局のメールアドレス hirodaikokushi@gmail.com
- ※ 投稿に際しては、図表を最小限におさえ、完成原稿でお願いします。また、原稿は必ずお手元でコピーをとって保存しておいて下さい。投稿は本会会員に限ります。
- ※ 掲載については、原稿を受領後、編集担当者会議で審査し、審査終了後にご通知します。なお、文中に掲載許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、掲載決定後、著者の責任において権利者から許可の承諾書を取得して下さい。
- ※ 掲載された論文等については、原則として弘前大学学術情報リポジトリで公開します。公開許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、リポジトリ公開についても、著者の責任において権利者からの許可手続きを行って下さい。
- ※ 掲載分の論文等については、PDFまたは抜刷30部をさしあげます。
- ※ 本誌掲載の論文等を転載する場合は、本会の了承を得て下さい。

令和三年十月三十日

弘前大学 國史研究 第一五一号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学教育学部日本史研究室内

編集者 発行者 弘前大学 國史研究会

振替口座 〇二三〇〇一六三四番